

おおぞら病院 看護師ラダー評価基準

①

～看護協会・レジリエンスメディカル資料より～

		レベルⅠ(新人)	レベルⅡ(一人前)	レベルⅢ(中堅)	レベルⅣ(達人)	
レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じて助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	
到達目標		指導を受けながら、基本的な看護を実践できる  指導を受けることによって、自己の学習課題を見つけることができる	看護実践の場面において、自立して安全・確実な看護を実践できる  チームリーダー的な役割を自覚して、業務の責務を認識・実践できる	エビデンスに基づく看護実践ができ、組織的な役割を遂行できる  所属部署における看護実践の役割モデルとされる	所属部署を超えて看護部内の問題を把握し、組織全体の目標達成に向かって行動できる 論理的な実践的知識を活用して、卓越した看護実践を行うことができる 豊富な知識と経験を活かして質の高い看護実践ができる	
看護実践能力	看護実践の総括目標		周囲と良好な人間関係を構築することができる  患者を理解して患者・家族と良好な人間関係を構築することができる	看護計画に基づいたケアを実践できる カンファレンスでの患者情報を共有し実践に活用できる 自立した意思決定をすることができ、問題を解決できる 患者家族の反応を観ながら援助できる	熟練した看護技術でケアができ、他のメンバーに指導できる 個別性を考えて看護ケアの実践ができる 優先順位を考慮した看護実践ができる 看護ケアを評価して意識的にフィードバックできる リソース(人・物・システム・制度)を活用し、ケアに活かすことができる 看護技術を他のメンバーに指導・共有できる	多種多様なアプローチを考慮して看護ケアを実践できる  看護実践においてスタッフの人的資源となれる  専門的な領域において教育的な役割がとれる
	看護実践能力	(ニーズをとらえる力)	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる
		(ケアする力)	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する
		(協働する力)	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる
		(意思決定を支える力)	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる
	看護過程の展開	指導を受けながら、フィジカルアセスメントができる 指導を受けながら、看護診断を立案できる 実施したケアの評価をすることができる	意図的な情報収集できる フィジカルアセスメントができる 看護診断が立案できる 個別性のある看護計画を立案できる 看護過程における目標の達成度が評価できる	所属部署内で看護過程を指導できる カンファレンスを開催して問題解決ができる 所属部署内で記録の指導ができる	看護過程を指導できる 看護過程を監査できる	